

2021 年度 事業報告書

公益財団法人 日本 AED 財団

I. 事業期間

2021 年(令和 3 年)4 月 1 日～2022 年(令和 4 年)3 月 31 日

II. 事業報告

「心臓突然死から市民を救うことを目的とし、もって我が国における安全安心を確保することを目指す」という財団の理念に基づき、School（学校への心肺蘇生・AED 教育の普及促進、学校での心臓突然死ゼロを目指した取り組み）、Sports（スポーツ現場への心肺蘇生・AED 教育の普及促進、AED 活用体制の整備によるスポーツ現場での心臓突然死ゼロを目指した取り組み）、Social（社会運動と Social Network を活用した救命システムの確立と普及、情報発信）の 3 つの S を柱として、取り組みを行った。

設立 6 年目を迎えたが、公益財団法人としての管理体制、基盤の強化に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、事業活動や予定していたイベントの多くが中止や延期もしくは例年とは異なる形での開催となる等様々な影響があったが、オンラインでの会議や講習会の開催について工夫を行い目的の達成に向けた事業の継続に努めた。

III. 会議開催

定款に基づき以下の会議を開催した。

評議員会(定時 1 回)：6 月 17 日(於:KKR ホル・WEB のハイブリッド開催)

理事会(定時 4 回)：5 月 26 日・6 月 17 日・10 月 22 日・3 月 18 日

(於：いずれも WEB・対面のハイブリッド開催)

実行委員会：(3 回) 6 月 17 日・9 月 21 日・3 月 18 日(於：いずれも WEB 開催)

《主な取り組み》

(1) 社会全体に対して行う事業

①AED 推進フォーラム

減らせ突然死 AED 推進フォーラム 2021～AED を活かすためのチームワーク～を開催。

新型コロナウイルス感染症予防のため、人数限定での開催とした。名誉総裁である高円宮妃殿下によるご挨拶のお言葉からはじまり、「学校現場におけるチームワーク」、「スポーツ観戦現場におけるチームワーク」、「SNS を活用した地域でのチームワーク」についての講演の後、「AED を活かすいつでもどこでもチームワーク」としてパネルディスカッションを行った。

記録冊子と収録動画を DVD で関係協力団体に配布した。更に、フォーラムの内容を広く一般に知っていただくため記録冊子をホームページに掲載する準備を進めている。

②表彰事業 (AED 功労賞)

AED の利活用促進の為に仕組みや仕掛け作りに貢献した個人や団体を表彰し、さらなる利活用を促進することを目的に表彰事業を実施した。AED を活用して救命に関わった個人・団体を全国から自薦・他薦を得るためホームページ上、チラシ等により広く募集し、16 件の応募があった。選考委員による公平な審査を経て、下記 3 件が表彰された。

【最優秀賞】 Team いばらき教職員有志 様

「発達段階に応じた救命教育プロジェクト」

【優秀賞】 inochi Gakusei Innovators' Program 2021 KANAZAWA 様

「突然死の悲しみのない未来を創るために」

【優秀賞】 神奈川県鎌倉市立第一中学校 男子バスケットボール部 様

「中学生が教師を救う」

①の AED 推進フォーラムで表彰式を行ったほか、記録冊子、ホームページでその取り組みを紹介した。

③情報発信

ホームページやニュースレターの発行、各種 SNS 等を通じ、AED の普及啓発に関わる情報発信、当財団の活動の周知を継続的に実施した。より情報が伝わりやすいよう、ホームページの改修に着手した。

- コロナ禍での AED の使用率と院外心停止からの救命率低下に関わる緊急声明

総務省消防庁から、コロナ禍の 2020 年に AED の使用率、院外心停止からの救命率が低下したことを示唆するデータが公表されたことを受け、コロナ禍でも AED を使って救命処置に協力するよう緊急声明を行った。声明は NHK をはじめとするメディアでも取り上げられ社会的関心を集めた。

- AED を学ぶための e ラーニング教材『心止村湯けむり事件簿』の配信

<http://aed-project.jp/suspence-drama/>

- AED 大使の協力による情報発信

蝶野正洋大使：AED もっと身近にキャンペーン動画に出演

<https://youtu.be/RhWYhf8QIH4>

有森裕子大使：AED 推進フォーラムで「発信する機会と場を求めて」について発言

山本篤大使：AED 推進フォーラム パネルディスカッションに出演

中村憲剛・蝶野正洋・有森裕子各大使：オンライン講習会で AED 啓発ビデオに出演

- 教本「命を守る 心肺蘇生 AED」配布事業

日本宝くじ協会の助成を受けて「命を守る 心肺蘇生 AED」教本を制作し、61 万部の配布を行った。主に、スポーツ指導者、パラスポーツに係わる団体、全国組織の団体などに広く配布し、活用いただいた。

④AED に関する調査・提案

- 小児用パッドに関わる問題提起と啓発

従来、小学生に用いる AED の電極パッドには「成人用」との表記がされており、学校で心停止となった小学生に、「小児用」と「成人用」のどちらの電極パッドを使うべきか、教師が迷う事例が発生した。当財団ではこの混乱を是正するために関係者と協議を行い、その結果を受けて、蘇生ガイドライン 2020 内での表記が「小児用」⇒「未就学児用」、「成人用」⇒「小学生～大人用」へ修正された。一般市民及び各 AED メーカーに周知徹底するための情報発信を行った。

- AED の JIS マークの普及・啓発

2019 年 7 月に経済産業省から発表された AED の JIS マークの普及・啓発に努めた。東京都の交番、東京消防庁の各消防署に新 AED マークとして掲示されるなど普及が進んでいる。

(2) スクール関連事業

① 学校教育関連団体との協働事業の推進（学習指導要領への記載）

小学校から始まる学校での救命教育を推進するため、小学校の学習指導要領への新規記載、中学校高等学校の指導要領における位置づけの強化、教員養成課程への救命教育の導入などを求める取り組みを進めた。

3月25日付の閣議決定「第3次学校安全の推進に関する計画」のなかで、教員養成課程における「AEDを用いた実習を含む一次救命処置（BLS）の実施」（8頁）が明記された。

https://www.mext.go.jp/content/20220325_mxt_kyousei02_000021515_01.pdf

② 救命教育副読本等の配布

小学校安全教育用副読本を作成し、ホームページや案内用チラシ等を通じて、広く小学校に紹介し、希望する学校（119校、17,856冊）へ配布したが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により昨年に比べて約8割減であった。配布した学校に対しては副読本を活用した救命教育に関するアンケート調査を行った。合わせて成人用の副読本も作成し、ホームページからダウンロードできるようにした。

③ 学校版 EAP（エマージェンシーアクションプラン）の作成・配布

教育現場での心臓突然死を減らすために、学校関係団体、医療関係団体と連携し、学校において緊急事態が発生した際の一連の行動を事前に確認していざという時に備える、Emergency Action Plan の作成と配布・配信を行った。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/School_EAP.pdf

④ スクールフォーラムの開催

小学校における救命教育導入への基盤を構築するため、研究委嘱校において、救命教育のモデル授業やシンポジウムを千葉市立新宿小学校で開催する予定だったが、コロナの影響で2022年度に延期となった。

⑤ 関連する情報の発信

桐淵理事が中心になってまとめた「『ASUKA モデル』と小学校からの救命教育の推進」の研究冊子の紹介を行った。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/Kiribuchi_report.pdf

(3) スポーツ関連事業

① 提言の作成とその啓発と実践

『スポーツ中の心臓突然死ゼロを目指して』、及びスポーツ版 EAP（エマージェンシーアクションプラン）を作成・公開し、スポーツ団体に導入を促した。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/EAP_Sports.pdf

② スポーツ施設の AED 設置場所ガイドラインや案内標識の見本提示

「2020 東京オリンピック・パラリンピックに係る救急・災害医療体制構築を検討する学術連合体（コンソーシアム）」に当財団理事が委員として参加し、競技場や街中での AED の設置基準、AED 案内誘導表示の標準化について意見を述べた。また、ボランティアの救命講習会に講師として参加した。

③スポーツ中の心停止事故等に関する情報収集方法の検討

安全なスポーツ環境の構築のため、関係機関、スポーツ関係者・大学・研究機関の教員・研究者等の有識者と共に、データに基づいた救護救急体制の整備構築を提案し、安全なスポーツ環境の構築に繋げることを目指し、スポーツ中の心停止事故等に関する情報の収集方法について検討を進めた。

④スポーツを通じた心肺蘇生・AEDの啓発

スポーツ向けAED啓発動画を監修し、継続配信した。

300秒のキセキ【スポーツ編】

<https://youtu.be/6L-iEydV0m0>

日本AED財団の医師（本間実行委員）による解説動画

<https://youtu.be/Mfbsw9DgSeg>

(4) ソーシャルムーブメント関連事業

①各種団体と連携した社会活動の促進

AEDの認知度向上を目的として、心肺蘇生・AEDの利活用、普及促進につながる活動を各種団体（厚生労働省、消防庁、日本救急医療財団、日本心臓財団など）と連携して行なった。他の団体主催のイベントに参加し救命講座などの開催や、マスコミからのAED取材への協力を行うことなどにより社会活動を促進した。

【マスコミ取材等（新聞・TV・保健所等）への対応による促進活動】

（三田村理事長）

- ・2月9日 NHKの「おはよう日本」で「コロナ禍でAEDの使用率と救命率が低下」が取り上げられ、VTRで出演

（石見専務理事）

- ・10月6日 朝日新聞 「AEDもう迷わないで」で女性に対する使用について解説
- ・2月16日 FNNプライムオンライン “非接触”のコロナ禍でAED使用率が低下…団体がSOS「救える命が救えていない」について解説
- ・3月26日 読売新聞 女性にAEDためらうかも 女性に配慮したAEDの使用例について解説
- ・3月29日 読売新聞 コロナ禍AED使用減について解説

（武田常務理事）

- ・10月12日 FM富士アクタスにて当財団理事 AEDについて解説
- ・3月9日 TBSラジオ 森本毅郎 スタンバイ！ にて「コロナで使用率が低下、一方で画期的なAEDが登場」について解説

（本間実行委員）

- ・7月1日 NHK 岐阜放送「ぎふりぽ『AEDの日 コロナ禍での救命講習』」でVTR出演
- ・7月16日 朝日新聞デジタル【コラム】1秒でも早くで解説
- ・8月2日 BuzzFeed 「俺、マジでサッカー好きなんすよ」松田直樹の突然の死から10年。「目の前で誰かが倒れたら…」遺族が願うこと」で解説
- ・1月31日 NHKの「おはよう日本」で「スポーツ観客に速やかにAEDを」でVTR出演

・3月10日 NHK WEB「今、目の前で突然人が倒れたら あなたはAEDを使えますか？」
で解説

(その他)

・12月14日桐生タイムス「コロナ時代のAED」で財団の活動紹介

【共催・後援】

・11月21日 inochi WAKAZO Forum2021 後援

②高精度全国AEDマップ『AED N@VI』の運営

ボランティアの協力を得て、精緻なAED設置情報を継続的に取得し更新し続けることの出来るAEDマップ(AED N@VI)を運用し、信頼性の高いAED設置情報を共有している。『救命サポーター』として登録したボランティアを通じてAEDの設置情報を受け取り、ホームページ・チラシ等で広く社会一般に公表した。

3月31日現在の登録数：

個人サポーター約6,822人、団体サポーター65団体、AED登録台数約43,666台

③AED救命支援システムの普及に向けた課題の整理

心停止現場付近にいる登録ボランティアへ、消防を通じて心停止発生情報を共有し、AEDを現場に運ぶというシステムに関する課題の整理を行う事で、全国の既存AEDが活用される機会を増やす活動を進めた。AEDマップ・AED救命支援システム活用検討会については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催せず、AEDの活用促進に向けた課題が生じた際に適宜対応する形とした。

④AED講習会の開催

会員及びその他企業、スポーツ団体等から講師派遣の依頼を受け、AED講習の機会を提供している。また、今年度はコロナの影響で対面講習ができなかったためオンラインでの開催方法を確立し、WEBで定期的にオンラインAED講習会を実施した。

講習会の実施は、イベントで2回、企業・学校・自治会、その他へ22回、財団事務局よりWEBでの定期開催22回の計46回で、延べ2,350人の受講となっている。

以上のとおりであるが2021年度事業報告には、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので附属明細書は作成しない。